

4023R000 氏名（漢字もしくはローマ字）

主査 早稲田 太郎教授

Keywords: キーワード 1, キーワード 2, キーワード 3 (キーワードの間はカンマ “,” で区切る)

これは、アジア太平洋研究科修士論文の要旨の雛形です。用紙サイズは A4 を使用、段組みは 2 段。要旨には、本論文の目的、結果、本論の構成、主要参考文献を記載してください。このフォーマットには、要旨作成上の必要なスタイルがすでに設定されているため、変更はせずこのまま使用してください。たとえば、主題は、中央寄せ・MS ゴシック 11 ポイント。副題が必要な場合は、MS ゴシック 10.5 ポイント・中央寄せ。また、学籍番号・氏名・主査名・キーワード・本文は MS 明朝 11 ポイントです。すべて所定の箇所に書いてください。上下左右の余白等含め、変更せずにご使用いただければ上記のルールが満たせます。主要参考文献は、[主要参考文献]という見出しの下に、文献をリストにしてください。一つの文献が二行にわたる場合は、二行目以降を全角一文字（英数三文字）おとして記述してください。

文字数は 3,500 文字程度（こちらのサンプルで 3,512 文字）で、内容の核心となる表や図を含めてもよいですが、必ず A4 サイズ二枚以内におさめてください。以下同文です。

これは、アジア太平洋研究科修士論文の要旨の雛形です。用紙サイズは A4 を使用、段組みは 2 段。要旨には、本論文の目的、結果、本論の構成、主要参考文献を記載してください。このフォーマットには、要旨作成上の必要なスタイルがすでに設定されているため、変更はせずこのまま使用してください。たとえば、主題は、中央寄せ・MS ゴシック 11 ポイント。副題が必要な場合は、MS ゴシック 10.5 ポイント・中央寄せ。また、学籍番号・氏名・主査名・キーワード・本文は MS 明朝 11 ポイントです。すべて所定の箇所に書いてください。上下左右の余白等含め、変更せずにご使用いただければ上記のルールが満たせます。主要参考文献は、[主要参考文献]という見出しの下に、文献をリストにしてください。一つの文献が二行にわたる場合は、二行目以降を全角一文字（英数三文字）おとして記述してください。

文字数は 3500 文字程度（こちらのサンプルで 3,512 文字）で、内容の核心となる表や図を含めてもよいですが、必ず A4 サイズ二枚以内におさめてください。以下同文です。

これは、アジア太平洋研究科修士論文の要旨の雛形です。用紙サイズは A4 を使用、段組みは 2 段。要旨には、本論文の目的、結果、本論の構成、主要参考文献を記載してください。このフォーマッ

トには、要旨作成上の必要なスタイルがすでに設定されているため、変更はせずこのまま使用してください。

【注意】

※黄色ハイライト部分を記載してください。

※サマリーは 2 ページになるように作成してください。

は、[主要参考文献]という見出しの下に、文献をリストにしてください。一つの文献が二行にわたる場合は、二行目以降を全角一文字（英数三文字）おとして記述してください。

文字数は 3500 文字程度（こちらのサンプルで 3,512 文字）で、内容の核心となる表や図を含めてもよいですが、必ず A4 サイズ二枚以内におさめてください。以下同文です。

これは、アジア太平洋研究科修士論文の要旨の雛形です。用紙サイズは A4 を使用、段組みは 2 段。要旨には、本論文の目的、結果、本論の構成、主要参考文献を記載してください。このフォーマットには、要旨作成上の必要なスタイルがすでに設定されているため、変更はせずこのまま使用してください。たとえば、主題は、中央寄せ・MS ゴシック 11 ポイント。副題が必要な場合は、MS ゴシック 10.5 ポイント・中央寄せ。また、学籍番号・氏名・主査名・キーワード・本文は MS 明朝 11 ポイントです。すべて所定の箇所に書いてください。上下左右の余白等含め、変更せずにご使用いただければ上記のルールが満たせます。主要参考文献は、[主要参考文献]という見出しの下に、文献をリストにしてください。一つの文献が二行にわたる場合は、二行目以降を全角一文字（英数三文字）おとして記述してください。

文字数は 3500 文字程度（こちらのサンプルで 3,512 文字）で、内容の核心となる表や図を含めてもよいですが、必ず A4 サイズ二枚以内におさめてください。以下同文です。

これは、アジア太平洋研究科修士論文の要旨の雛形です。用紙サイズは A4 を使用、段組みは 2 段。要旨には、本論文の目的、結果、本論の構成、主要参考文献を記載してください。このフォーマットには、要旨作成上の必要なスタイルがすでに設定されているため、変更はせずこのまま使用してください。たとえば、主題は、中央寄せ・MS ゴシック 11 ポイント。副題が必要な場合は、MS ゴシ

ック 10.5 ポイント・中央寄せ。また、学籍番号・氏名・主査名・キーワード・本文は MS 明朝 11 ポイントです。すべて所定の箇所に書いてください。上下左右の余白等含め、変更せずにご使用いただければ上記のルールが満たせます。主要参考文献は、[主要参考文献]という見出しの下に、文献をリストにしてください。一つの文献が二行にわたる場合は、二行目以降を全角一文字(英数三文字)おとして記述してください。

文字数は 3500 文字程度(こちらのサンプルで 3,512 文字)で、内容の核心となる表や図を含めてもよいですが、必ず A4 サイズ二枚以内におさめてください。以下同文です。

これは、アジア太平洋研究科修士論文の要旨の雛形です。用紙サイズは A4 を使用、段組みは 2 段。要旨には、本論文の目的、結果、本論の構成、主要参考文献を記載してください。このフォーマットには、要旨作成上の必要なスタイルがすでに設定されているため、変更はせずこのまま使用してください。たとえば、主題は、中央寄せ・MS ゴシック 11 ポイント。副題が必要な場合は、MS ゴシック 10.5 ポイント・中央寄せ。また、学籍番号・氏名・主査名・キーワード・本文は MS 明朝 11 ポイントです。すべて所定の箇所に書いてください。上下左右の余白等含め、変更せずにご使用いただければ上記のルールが満たせます。主要参考文献は、[主要参考文献]という見出しの下に、文献をリストにしてください。一つの文献が二行にわたる場合は、二行目以降を全角一文字(英数三文字)おとして記述してください。

文字数は 3500 文字程度(こちらのサンプルで 3,512 文字)で、内容の核心となる表や図を含めてもよいですが、必ず A4 サイズ二枚以内におさめてください。以下同文です。

これは、アジア太平洋研究科修士論文の要旨の雛形です。用紙サイズは A4 を使用、段組みは 2 段。要旨には、本論文の目的、結果、本論の構成、主要参考文献を記載してください。このフォーマットには、要旨作成上の必要なスタイルがすでに設定されているため、変更はせずこのまま使用してください。たとえば、主題は、中央寄せ・MS ゴシック 11 ポイント。副題が必要な場合は、MS ゴシック 10.5 ポイント・中央寄せ。また、学籍番号・氏名・主査名・キーワード・本文は MS 明朝 11 ポイントです。すべて所定の箇所に書いてください。上下左右の余白等含め、変更せずにご使用いただければ上記のルールが満たせます。主要参考文献は、[主要参考文献]という見出しの下に、文献をリストにしてください。一つの文献が二行にわたる場合は、二行目以降を全角一文字(英数三文字)おとして記述してください。

文字数は 3500 文字程度(こちらのサンプルで

3,512 文字)で、内容の核心となる表や図を含めてもよいですが、必ず A4 サイズ二枚以内におさめてください。以下同文です。

これは、アジア太平洋研究科修士論文の要旨の雛形です。用紙サイズは A4 を使用、段組みは 2 段。要旨には、本論文の目的、結果、本論の構成、主要参考文献を記載してください。このフォーマットには、要旨作成上の必要なスタイルがすでに設定されているため、変更はせずこのまま使用してください。たとえば、主題は、中央寄せ・MS ゴシック 11 ポイント。副題が必要な場合は、MS ゴシック 10.5 ポイント・中央寄せ。また、学籍番号・氏名・主査名・キーワード・本文は MS 明朝 11 ポイントです。すべて所定の箇所に書いてください。上下左右の余白等含め、変更せずにご使用いただければ上記のルールが満たせます。主要参考文献は、[主要参考文献]という見出しの下に、文献をリストにしてください。一つの文献が二行にわたる場合は、二行目以降を全角一文字(英数三文字)おとして記述してください。

文字数は 3500 文字程度(こちらのサンプルで 3,512 文字)で、内容の核心となる表や図を含めてもよいですが、必ず A4 サイズ二枚以内におさめてください。以下同文です。

[主要参考文献]

- Inoue, T. (2001) Symbolic Computation for Asymptotic Expansions of Multivariate Statistics. (to appear)
- Inoue T., Asahi Y., Yamaguchi K. (2001), 'An Advanced Statistical Information Disclosure over the Internet', Proceedings of the IAOS Satellite Meeting on Statistics for the Information Society, 208-217.